

の客観性が一步進んでゐる。と同時に、相手との關係を、こつちのあり方において感じてゐるものといへる。尊敬といひ、謙遜といへば、幼兒の心として言葉の色が濃すぎるが、つまりは、謙のない敬はなく、その謙はこつちのあり方である。親や信だけには、必ずしもこの心は動いてゐない。ほのかながら此の心の動くところに、敬の特色があり、一步進んでゐるといふのもその意味である。

それに、親は、或は動物心理にある同類感にも似てゐる。信は弱者心理の依頼感と相通するところもある。敬に至つては、それこそ、動物心理には存しないもの、弱者心理とは全く別のもので、これこそ、眞に人間のなもの、最も民主的なものといへる。相敬してこそ眞に人間が人間に對する人間らしい關係であり、一點の弱者性をもたないのが民主的生き方である。

たゞ、この敬に至つて、一步進んでゐるだけに、親や信の純人間性と異なる社會性が混じて來て、同じ敬に、いろいろの質の異つたものが起る。殊も、封建的社會生活の所産としての敬の中には、敬の心が甚しく重視せられると同時に、甚しく非民主的なものも少くない。これはくわしくは別論に譲つた方がいゝと思はれるが、純一に人間なるが故に敬するといふ、眞の民主的敬の性こそ、幼兒の時から方向づけなければならぬ性格である。

秋晴の音楽

東京女高師
附屬幼稚園

菊池ふじの

天高の秋晴の唱歌の材料として。倉橋惣三氏作詞、井上武士氏作曲の「ス、メ ス、メ」を先づ第一に採りませう。この歌の歌詞をよく味はつて見ますと、一番は、紺碧の高い高い大空への憧れを、二番は、茫々たる廣い／＼大地への力を加へての憧れを、三番は見渡せど渾しなき遠い／＼前進への憧れを、つまり天地悠久へ 純な憧れを歌つてゐるのだと思ひます。私共保姆は、作詞者のこのこゝろを充分に理解して、子供達へ、この理想を何とはなしに傳へてやりたいと思ひます。曲も亦よくこの心持を表現して居ると思ひます。

指導法、初めに、幾回も伴奏を附けながら先生が歌つてやつて、この歌のリズムを子供の心の中に入れてやります。この度はこういふお唱歌を教へて上げますよ、よく聴いていらつしやい」と云つて先生が、弾きながら面白さうに歌つて居ますと、繰り返す中には子供は頭で拍子をとりながら、歌ひたげに、片言ながら口を動かしたりして來るものです。こうなつたところで、今度は、伴奏を一時止めて、單音か或ひは樂器なしで、言葉をよく教へながら、口授の形を取るのが一番早くそしてよく解る方法だと思ひます。かうして先づ、一番を何回も／＼も先生と子供と一緒に歌つて、歌詞も曲も

子供に分らせませう。大體分つたら次には伴奏を付けてやつて充分に興味深く歌はせる様にします。一番を覺えたら二番、三番を教へませう、一時間に一番を覺えられたら先づ上々でせう、又飽きない様にするために、男の子だけとか、女兒だけとか、或は前後半分づゝ交代して歌ふとか、次には歌へる人が獨りで歌ふとかいふ風に形を變へて歌はせるど、子供は飽きないでそして苦勞なしに覺えてしまふものです。

それから、唱歌は唱歌の時間と決めた時だけでなく、お辯當前の靜肅になるのを待つ一時とか、又お歸り前の一時等、充分樂器なしで結構ですから、歌つたり歌はせたり致しますと、らくに覺え且つは唱歌が好きになります。

尙ほ十月には繪本唱歌の中の「カケツコ」「トンボ」等も好い材料と思ひます。今月の保育教材として擧げた以上の三つは、年長、年少、何れもよろしいと思ひます。

次に音感教育のことですが、再建日本は、ひたすらに文化國家として世界に伍してゆくことが目的なものですから、文化人としての耳の鋭敏さを育成する爲に必要なものです。「ドミソ」「ドファラ」の系統的な音感教育に入る前に、幼稚園としては、いろ／＼なものゝ音を聴き分ける事、例へば、大鼓の音、硝子の音、箱の音、棒の音、身邊にあるあらゆるものを取り上げて音の聴き分けをさせること等。又「あてっこ」と云ふ遊びの形で、子供達の既に知つて居る唱歌の一節を弾い

て、なるべく早く當てさせること等をも屢々行つて、楽しみ喜んで識らず識らずの中に音感教育への導き入れを行ふことも唱歌の指導上大切な事項と思ひます。(曲譜は表紙の三に掲載してあります)

戸外遊び

東京女高師
附屬幼稚園

上遠文子

自由遊びは幼児の全生活であります。それだけにその中には遊戲あり、娯あり、研究あり、工夫、創作があります。何處までが遊びで此處からは他の仕事といふ區別がなく、すべて自由遊びの中に折込まれてゐるのであります、それゆゑ、それを指導する我々の立場としては、一舉一動、一言一句、一時一刻、貴重なるものとして、よりよく幼児を、時には助來し、時には誘引し、そしてよりよく指導する事が私共、保姆の一つの使命であります。

終戦以來子供達にも明るい園が開かれ、現在楽しい生活をよりよく、楽しいものにして上げたいものであります。私共として其處には幾多の不自由がある事せう。が、それを克復するのこそ保姆の手腕に依ると云つても過言ではないでせう。

秋ともなれば、氣候は心地よく手足のび／＼、大空に向つ